九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

思い出

永井，彰子
元九州大学院生

https://doi.org/10.15017/1523929

出版情報：歴史を歩く時代を歩く ： 服部英雄退職記念誌 ： とことん服部英雄, pp.353-, 2015-03-31.
九州大学大学院比較社会文化研究院服部英雄研究室
バージョン：
権利関係：

思い出

永井　彰子

服部英雄先生に初めてお目にかかったのは、六本松校舎の研究室をおたずねしたときであった。膨大な書籍や資料にかこまれて緊張したが、先生の温顔に接してほっとしたことを覚えている。

一九五八年に大学を卒業した私は、一九九七年、九州大学大学院比較社会文化研究科博士後期課程に入学を許された。まさに「六十の手習い」で研究を志し、ふたたび学生生活をスタートさせたのである。研究テーマについてはすでに決めていたものの、朝鮮史に関連する知識も不十分であり、研究方法など多くの基礎的課題をかかえ、まったく暗中模索の日々が続いていた。

服部先生の授業では、古文書の講読に興味がわき、のちには差別資料に関する研究会やフィールドワークにも参加させていただいた。服部先生から学問上の刺激を受けながら、若い仲間とともに過ごした時間は楽しく、何ものにも代えがたい喜びをもたらしてくれた。

二〇〇〇年三月、松原孝俊指導教授の三年にわたる懇切なご指導のもと、私は「日韓盲僧集団に関する歴史的研究―玄清法流と大韓盲人易理学会」と題して学位請求論文を提出した。その際、服部先生には主査をお引き受けいただき、有馬學、高野信治、網野善彦、崔吉城の諸先生とともに論文審査の労をお取り下さった。服部先生をはじめ、諸先生から賜ったご指導と限りない御学恩には、感謝してもしきれないほどである。

そしてまた、服部先生が網野善彦先生を今津の毘沙門山へご案内した日のことも思い出深い。当時、博士課程在学中の西野玄さん運転の車で中腹まで行ったあと、四人で頂上を目指してひたすら歩いた。山頂にたどりつくなり視界がひらけ、眼下に一望する博多湾の風景に圧倒される。帰途は服部先生のご自宅に直行した。奥様のお心のこもるおもてなしにあずかり、お食事まで頂戴した。先生のご家庭のぬくもりが伝わってきて、その心地よい雰囲気に魅せられてしまった。

以来、今日に至るまで服部先生の変わることのない温厚でかざらないお人柄、折りにふれてのあたたかいご指導に心和み、励まされたのは私だけではないだろう。

服部先生、数々のすばらしい業績をあげられてのご退職、まことにおめでとうございます。これからもお元気でお過ごし下さいますよう、そして引き続いてご指導を賜りますようよろしくお願いいたします。

（元九州大学院生）